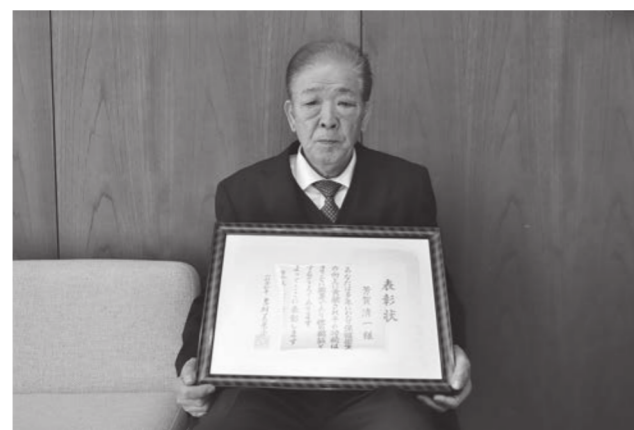




ふるさと大石田を懐かしむ 4年ぶりの首都圏大石田会

首都圏大石田会総会が、11月12日(日)に東京都のコートヤード・マリOTT銀座東武ホテルで開催され、参加者がふるさと大石田の話に花を咲かせました。首都圏大石田会には、首都圏に暮らす大石田町出身者など約200名の方が加入しています。コロナ禍によって4年ぶりの開催となった今年の総会には約80名の方が訪れました。

総会に続いて行われた親睦のつどいでは木村里美さん(下宿)が民謡を披露したほか、「連合婦人会」のメンバーが元祖花笠踊りを披露しました。踊りの輪には会員の方も加わって、楽しいひと時を過ごしていました。



芳賀清一さんに 山形県知事(環境衛生功労者)表彰

このたび、芳賀清一さん(豊田)が、山形県知事表彰(環境衛生功労者)を受けました。

芳賀さんは平成22年に豊田地区衛生組織連合会長に就任して以来、長年にわたり、地区内の衛生改善や環境美化に積極的に努められたほか、町全体の指導者として環境衛生事業の活性化に貢献されました。これらの功績が認められ、今回の受賞となりました。

大変おめでとうございます。



子どもの創意工夫を育む 管内に発明クラブが発足

企業や行政が後押しして、子どもが創意工夫する力を育成する「少年少女発明クラブ」が、新たに尾花沢市・大石田町管内に発足しました。これを受けて、11月25日(土)に尾花沢市立玉野小学校で設立式・開校式が行われ、小学生や関係者など約20名が参加しました。

少年少女発明クラブは1974年に誕生し、現在、全国47都道府県に212か所、約11,000名の子どもたちと約2,800名の指導員が活動しています。

この日は、自己紹介などのオリエンテーションのほか、コンクリートを使った小物づくりが行われ、参加した児童は初めて見る生のコンクリートに驚きながらも、楽しそうに工作していました。



町内小学生が大きく育った 自然薯を収穫・販売体験

自然薯の収穫体験活動が、11月15日(水)に大石田南小隣の自然薯畑で行われました。これは、特産の自然薯栽培を通して、将来の職業選択や郷土への愛着を深めてもらおうと、大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)の協力で毎年実施しているものです。

この日は、町内3小学校の6年生児童41人が参加し、大きく育った自然薯を収穫しました。児童たちは、研究会のメンバーに指導を受けて土を掘り返し、長いもので1メートルほどに育った立派な自然薯を収穫しました。

参加した佐竹海俐さん(大小)は「(収穫した自然薯を見て)長いものや短いものもあって面白いです。自然薯は食べたことがないので家に帰って家族で食べたいです」と話していました。

また、収穫した自然薯の販売会が、11月29日(水)にあつたまりランド深堀で行われ、児童が収穫した自然薯を購入しようと町内外から多くの方が訪れました。販売会は、町内3小学校の6年生児童が2グループに分かれ行われ、児童たちの販売開始の掛け声とともに、用意されたおよそ100本の自然薯が飛びように売れていきました。

児童たちはこの日のために、店頭を設置するPOPや自然薯の食べ方などをまとめたパンフレットなどを作成しており、大石田特産の自然薯を積極的にPRしていました。

販売会に参加した海藤都紀さん(大小)と鈴木悠仁さん(大小)は、「自分たちで定植・収穫した自然薯をたくさんのお客さんに買ってもらえて嬉しいです。そばやうどんにかけるとおいしく食べてもらいたいです」と話していました。